

# 博物館だより

No.27

平成20年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## 夏の企画展 「不動Ⅲ」向井澄男写真展

当館では7月15日から8月17日まで企画展「不動Ⅲ」向井澄男写真展を開催します。向井澄男さんは長年にわたって京築地方の風物を撮り続けた写真家で、その作品は数万点にのぼります。平成15年に亡くなられてのち作品は遺族から当館へ寄贈され、現在整理作業を進めています。



▲木井神社・九日祭の神輿渡御 (みやこ町犀川木井馬場)

今回、整理が終了した作品群から「京築地方の自然と風物」をテーマに企画展を開催致します。3回目となる今回も見ごたえのある作品が勢揃いしています。ぜひ、ご来館下さい。

みやこ町教育委員会・みやこ町歴史民俗博物館友の会 主催

## 第13回 小学生歴史たんけん 作文コンクール作品募集!



色んなことにチャレンジできる夏休み、日本や世界各地はもちろん、身近な町や地域の歴史を図書館や博物館で調べたり、まわりの人たちに取材して「歴史たんけん」してみませんか？夏休みにあなたが調べた歴史のことをまとめた作文を次のとおり募集します！

◎募集要領  
◎京築地方の小学5・6年生なら誰でもOK!  
◎内容はふるさとの文化や歴史

◎内容はふるさとの文化や歴史

の本を読んだ感想、旅行先で調べた歴史など、歴史に関することなら何でもOK!  
◎400字詰め原稿用紙3〜5枚程度にまとめてください。  
♪応募方法 作品に住所・氏名・学校名・学年を書き、個人または学校単位で博物館へ郵送して下さい。  
♪しめきり日 9月12日(金)  
♪結果発表 平成20年10月下旬。参加賞のほか、優秀賞に賞状・賞品を贈呈。

## 友の会バスハイクの お知らせ

博物館友の会では次のとおり「史跡散策バスハイク」を実施します。今回は夏季特別展が開催される2つの博物館を訪ねます。ふるつてご参加ください。なお、参加者は友の会会員に限りますが、友の会には随時入会できますので博物館までお問い合わせ下さい。

目的 福岡市美術館

「ボストン美術館浮世絵名品」展  
九州国立博物館

「島津の国宝と篤姫の時代」展  
参加費 3000円

参加申込方法  
博物館内友の会事務局まで

電話にてお申し込みください  
(033-4666)。お申し込みいただいたのち、詳細な案内ハガキをお届けします。

## 7月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】  
7月5日(土) 9時30分

【古文書講座】  
7月12日(土) 10時00分

【みやこ学講座】  
7月19日(土) 10時00分

【金曜古文書講座】  
7月25日(金) 10時00分

【古典かな講座】  
7月26日(日) 9時30分

## 《古文書解読コーナー》

① 先人がのこした土地

② 赤

③ 思い立つこと

④ 勢いが弱くなる

⑤ 切り開く。実用化する。

◎答え  
(反対向きに見てください)

- ① 遺跡
- ② 中庭
- ③ 発起
- ④ 衰景
- ⑤ 交開

知ってるつもりでのヒト・モノ・コトに意外なドラマが：

みやこの歴史発見伝 16

宿駅のすがた② 山鹿村

宿駅・山鹿村

江戸時代、仲津郡山鹿村（現みやこ町犀川山鹿）は、「秋月道」などと呼ばれた街道の宿駅（宿場町）でした。この道は、中津街道の宿駅・築城郡椎田村（現築上郡築上町）近くで分岐した脇道で、前回紹介した香春道とは、椎田から仲津郡天生田村（現行橋市）の四辻まで、重複する同じ一本の道でした。そして、天生田の四辻から西へ直進するのが香春道であり、南へ折れて山鹿へと向かう道が、ここで言う秋月道となります。

この道を秋月に向かって進み、山鹿村を過ぎて石坂峠（仲津郡・田川郡の郡境を越えると、間もなく次の宿駅・油須原村（現田川郡赤村）で、さらに進むと、宿駅・猪膝村（現田川市）がありました。ここで、小倉―秋月間を結ぶ「秋月街道」と合流し、大隈村（現嘉麻市）・千手村（同前）の両宿駅、そして最大の難所・八丁峠を越えて、秋月に入るのでした。

宿駅の負担

宿駅には本宿と半宿があり、本宿は原則として全て（幕府・白藩・他藩）の公用人馬継送りに対応し、半宿は原則として自藩の人馬継送りのみに対応しました。小倉藩には、幕府直轄街道に見られるような「助郷」制度（宿駅の負担を周辺の村々で分担する制度）が無かったので、人馬継送りは宿駅の村だけで対応しなければなりませんでした。見返りに年貢の控除はありましたが、それにして、その負担は軽く無かったです。

山鹿村は本宿でしたが、安政四年（一八五七）の史料によると、当時の家数は四九軒、人口一四九人、村高（土地台帳に登録された村の米生産意）四三二石余で、ごく平均的なスケールの村でした（永井家文書「小倉藩主御廻郡覚書」）。にもかかわらず、本宿として機能し得たのは、秋月道の通行量がそれほどでもなかったからだと思います。

幕末の旅人取締り

幕末期、小倉藩は世情不安を憂慮して旅人の取り締まりを強化しますが、文久元年（一八六二）二月からは各宿駅に対し、宿泊した旅行者の国許・名前等について、月二回（毎月一五日と月末）の報告を義務づけました（国作手永大庄屋文久元日記二月一〇日条。宿駅以外での旅人止宿は以前から禁止。また、翌文久二年六月からは月三回（二〇日・二〇日・月末）の報告を義務化し、また休息した旅行者も報告の対象として規制強化を図っています（国作手永大庄屋文久元日記六月一日条。さらに慶応元年（一八六五）閏五月からは、旅人が休泊した際は、その都度届け出ることを義務づけています（長井手永大庄屋慶応元年日記閏五月二六日条）。



▲現在の山鹿

山鹿村の幕末

もちろん、山鹿村でも文久元年二月以降は、藩の指示に従って、宿泊した旅行者（文久二年六月からは休息した者も）の調査・報告を行うようになります。その記録が今に残り、幕末期の休泊者の動きを追うことが出来ますが、試みに、文久二年（一八六二）と元治元年（一八六四）の休泊者をまとめたのが下の表です。これから読み取れるのは、①文久二年から元治元年に休泊者の大幅な増加を見ていること、②その増加は他藩藩士の極端な増加によるものであること、③特に島原藩士の増加が著しいこと、④九州以外からの旅行者が大きく減少していること、などです。

間違いなく、この変化は当時の社会情勢を反映していて、島原藩士の大幅増加は、第一次長州征討令により、同藩が飛地である豊後高田に陣を敷いたことによるものと推測されます。④は、長州との関係悪化で関門海峡の緊張が

●文久2年(1862)における山鹿村の休泊者 (単位:人)

藩用	私用・寺用等								計	
内訳参照	豊前	豊後	筑前	筑後	肥前	肥後	九州以外	その他		
	13	33	5	36	36	10	2	24(内訳参照)	1	160

→「藩用」の内訳

中津藩	島原藩	佐賀藩	秋月藩
8	3	1	1

→「九州以外」の内訳

京都	長門	江戸	大坂	周防	姫路	近江
11	5	2	2	2	1	1

●元治元年(1864)における山鹿村の休泊者 (単位:人)

藩用	私用・寺用等								計	
内訳参照	豊前	豊後	筑前	筑後	肥前	肥後	九州以外	その他		
	156	14	1	11	6	7	2	1(江戸)	12	210

→「藩用」の内訳

島原藩	柳川藩	福岡藩	久留米藩	中津藩	佐賀藩	対馬藩	萩藩
99	15	14	11	6	6	3	2

※「その他」は史料に記述された村が存在しない場合など。

【史料】長井手永大庄屋日記（九州大学記録資料館所蔵）

高まり、本州からの渡海が難しくなったことによるものと思われる。小さな宿駅も、確実に、大きな時代の波に呑まれていったことが読み取れます。

（川本英紀）